5 月 29 日のメッセージ

聖書：ヨハネによる福音書　17：　1 – 13

「喜びが満ちあふれるようになるために」

いよいよイエスが天に上げられる時が来ました(「……イエスは彼らが見ているうちに天に上げられた……」使徒言行録 1:9)。その時、イエスは聖霊の到来をもう一度予告されます。それがエルサレムで起こることを予告されました(「……こう命じられた。『エルサレムを離れず、……待ちなさい。……あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。』」使徒言行録 1:4-5)。聖書はたくさんの約束を伝えています。そして、その約束は果たされてきました。イエスがすでに約束されていたこともまた同じです。言われた通りのことが起こることは間違いありません。

「イエスは……、天を仰いで言われた。『父よ、時が来ました。』」(ヨハネによる福音書 17:1)

最後の晩餐の夜、イエスは神に祈られました(ヨハネによる福音書 17:1-26)。それは、間近に迫った十字架と復活の出来事を前に、弟子たちのために祈られたものでした。

「彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。」(ヨハネによる福音書 17:9)

イエスは残される弟子たちのために執り成しを祈られるのです。

今、再び地上での別れの時が迫っています。イエスはきっと同じように祈られたに違いありません。

「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」(ヨハネによる福音書 17:3)

永遠の命とは、ただ地上の命が長らえることを意味しているのではありません。その最後の時まで、しっかりと充実して命を全うすることを意味しています。神を、イエスを知ること。それは単に知識として知るばかりではなく、交わること、そしてその交わりを保ち続けることです。それこそが弟子たちに、そして人々に約束された救いです。生きにくさを感じる世を渡る唯一の道しるべなのです。

たとえ姿が見えなくなっても弟子たちが神と、イエスとの交わりをますます豊かなものとするだろうとイエスは確信しておられます。

神は、バビロンからイスラエルを解放するためにペルシャ王キュロスを遣わされました(「主が油を注がれた人キュロスについて……」イザヤ書 45:1)。異教徒であるキュロスのために道を備え、目的を果たされました(「わたしはあなたの前を行き、山々を平らにし……」イザヤ書 45:2)。異教徒でさえも用いられる神が、神の子であるイエスの執り成しを聞き逃すはずはありません。

「今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。」(ヨハネによる福音書 17:13)

聖霊の注ぎは弟子たちに真理を悟らせるためです(「……真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。……」ヨハネによる福音書 16:13)。そればかりでなく、聖霊が与えられるのは、イエスの喜びが人々の内に満ちあふれるようになるためです。

「知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるように。」(エフェソの信徒への手紙 1:17-18)

これはパウロの祈りですが、イエスの祈りも同様であったはずです。イエスの思いを、神の真理を知り、ますます豊かに変えられていく歩みを全うしてほしい。私たちは絶えず、この祈りの内に置かれています。イエスが、先達が私たちのために祈り続けてくださっています。

だとすれば、私たちはその神に、イエスに感謝し、賛美するのみです(「後の世代のために／このことは書き記されねばならない。『主を賛美するために民は創造された。』」詩編 102:19)。いよいよ間近に迫った聖霊の注ぎを期待しつつ待つのみです。